

## 伏見奉行与力の変遷

井上 幸治

### はじめに

近世京都の幕府機構については、既に多くの蓄積がある。本稿で取りあげる伏見奉行も、上方における幕府直轄都市・伏見を治める遠国奉行の一つとして、そのなかで取りあげられてきたものの、専論は少ない。それでもすでに『京都の歴史 第6巻』第1章第2節には「伏見奉行」の見出しが設けられ、成立経緯や組織・役割・管轄範囲などの基礎的なことがらまとめられた他、『京都の歴史 第10巻』にも歴代の伏見奉行が掲げられている<sup>1)</sup>。

これらの諸論点の多くは寛文期における上方幕府機構の整備に関する研究や、元禄期における一時廃止に関する検討、また伏見の地方支配に関する研究などからアプローチを受けて進展した<sup>2)</sup>。だがその一方、職務を担う与力・同心については、具体的な史料に乏しく、『京都武鑑』<sup>3)</sup>のようなまとまった史料も少なく、管見の限り、いまだまとめられたものはない。全員の氏名は、『伏見鑑』などからも判明するが、限られた断片的なものであることは否めず、全容をうかがうには至らない。

後述するように、伏見奉行は、伏見の町方だけでなく、伏見廻り8ヶ村の地方支配も管轄していた。そのためその管轄域内では、年貢徴収をはじめとするさまざまな史

料に、与力の名があらわれる。しかし現在は、断片的にしか与力の名前を把握できていないため、あらわれた人名が与力か否かを判断することが困難な場合もある。

そこで本稿では、伏見奉行与力の編成一覧表として示し、主に18世紀初頭までの変遷について考察する。小生は先に、京都町奉行与力の編成について復元案を提示しているが<sup>4)</sup>、本稿はその姉妹篇といえよう。

### 第1章 伏見奉行

#### ① 創設と補職者

伏見奉行与力の一覧を示す前に、伏見奉行についてまとめておく。

寛文6年(1666)3月に伏見奉行が創設され、水野忠貞(旗本, 5,000石)が、初代奉行とされた<sup>5)</sup>。伏見奉行には与力10騎と同心50人が付属され、御香宮の南側にあった奉行所の廻りには、奉行直臣・与力・同心の邸宅が並んでいた<sup>6)</sup>。

とはいえ水野は、慶安3年(1650)閏10月から上方郡代(代官奉行)として伏見で活動しており、実態としては上方郡代から伏見奉行への組織変更であり、巨視的に見れば、上方幕府機構整備の一環として、上方郡代が京都町奉行・京都代官・伏見奉行へと分離・整理されていったこととな

る。これにより伏見奉行は、京都所司代の管轄下で、京都町奉行からも指示を受けるという立場に置かれた。

そのため、元禄9～11年(1696～98)、文化5～7年(1808～10)の二度、伏見奉行は廃止され、その間は京都町奉行が支配を兼ねしている。また慶応3年(1867)7月に廃止された際は、京都町奉行へ吸収されている。このように、上方郡代を淵源

とする点では等しい京都町奉行・伏見奉行であったが、職制上は前者が上位に位置していた。

ところがその補職者を見ていくと、伏見奉行は2万石以下の小禄ではあるが大名も任じられ、旗本であっても5,000石をこえる者が多くを占めている<sup>7)</sup>。特に元禄11年の再置以降は、大名も任じられるようになり、その点でも遠国奉行中でも特異な存

表1 歴代の上方郡代(代官奉行:伏見)/伏見奉行(寛文6以後)

人名	官途	在任期間	禄高等
小堀政一	遠江守	寛永 11. 7. 8～正保 4. 2. 6	大名(備中松山 13,000石)
水野忠貞	石見守	正保 4. 3. 3～寛文 6. 3. -	旗本(6,000石)
同上	同上	寛文 6. 3. -～寛文 9. 4. 30	
仙石久俊	因幡守	寛文 9. 7. 3～天和元. 11. 21 歿	旗本(6,000石)
戸田忠利	長門守	天和 2. 正. 11～貞享 3. 11. 11	旗本(1,000石 600俵)
岡田善次	豊前守	貞享 3. 11. 11～元禄 7. 2. 12 歿	旗本(6,000石)
青山幸豊	信濃守	元禄 7. 3. 28～元禄 9. 正. 15	旗本(5,000石)
・・・(元禄9～11 廃止)・・・			
建部政字	内匠頭	元禄 11. 11. 15～正徳 4. 7. 11	大名(播磨林田 10,000石)
石川総乗	備中守	正徳 4. 7. 11～享保 5. 5. 24 歿	旗本(7,000石)
北条氏朝	遠江守	享保 5. 6. 21～享保 19. 10. 15	大名(河内狭山 10,000石)
小堀政峰	和泉守	享保 19. 10. 20～延享 3. 3. 1	大名(近江小室 11,460石)
菅沼定用	織部正	延享 3. 3. 1～寛延 4. 10. 15	旗本(交代寄合 7,000石)
堀 直寛	長門守	寛延 4. 10. 15～宝暦 8. 11. 18	大名(信濃須坂 10,000石余)
久留島光通	信濃守	宝暦 8. 11. 28～明和元. 9. 18 歿	大名(豊後森 12,500石)
本多忠栄	対馬守	明和元. 10. 15～安永 7. 10. 20 歿	旗本(9,000石)
小堀政方	和泉守	安永 7. 11. 8～天明 5. 12. 27	大名(近江小室 10,630石)
久留島通祐	信濃守	天明 5. 12. 27～寛政 3. 5. 15 歿	大名(豊後森 12,500石)
本庄道利	甲斐守	寛政 3. 5. 24～寛政 7. 12. 8	大名(美濃高富 10,000石)
松平喜生	但馬守	寛政 7. 12. 12～寛政 12. 11. 28	旗本(6,000石)
加納久周	遠江守	寛政 12. 11. 28～文化 4. 12. 20	大名(伊勢八田等 13,000石)
・・・(文化5～7 廃止)・・・			
本多政房	大隅守	文化 7. 10. 24～文化 11. 10. 30 歿	旗本(5,000石)
丹羽氏昭	式部少輔	文化 12. 正. 12～文政 2. 8. 8	大名(播磨三草 10,000石)
仙石久功	大和守	文政 2. 8. 24～文政 6. 3. 4 歿	旗本(4,700石)
堀田正民	豊前守	文政 6. 3. 24～文政 10. 9. 12	大名(近江宮川 13,000石)
本庄道貫	伊勢守	文政 10. 10. 12～天保 4. 6. 8	大名(美濃高富 10,000石)
加納久儔	遠江守	天保 4. 6. 24～天保 9. 9. 10	大名(上総一宮 13,000石)
内藤正繩	豊後守	天保 9. 9. 24～安政 6. 8. 11	大名(信濃岩村田 15,000石)
林 忠交	肥後守	安政 6. 8. 28～慶応 3. 6. 24	大名(上総請西 10,000石)

註)京都市編『京都の歴史10年表』(京都市、1971年)、『寛政重修諸家譜』等により作成

在であった。対して京都町奉行は、歴代の全員が旗本であり、禄高もほぼ3,000石以下に収まる。つまり身分・禄高を比較すると、京都町奉行よりも伏見奉行の方が格上であり、職制上の上下関係と、禄高の大小とが逆転していることがわかる。18世紀までの歴代伏見奉行は、表1の通りである。

② 管轄

伏見奉行の管轄するところについては、『京都御役所向大概覚書』七<sup>8)</sup>が簡便にまとめている。

史料1 「伏見町数・家数・人数・寺社数・橋舟馬数之事」(『京都御役所向大概覚書』七)

「二十七」伏見町数・家数・人数・寺社数・橋舟馬数之事

但、正徳四年改

一、町数三百六拾三町

内三百四拾八町 伏見

拾五町 六地藏

一、家数六千三百五拾六軒 此外年々新家出来

内五千九百三拾軒 伏見

三百三拾六軒 六地藏

右之外伏見附八ヶ村 尤伏見廻り

城州紀伊郡之内

堀内村 大亀谷村 深草村 治部庄村

景勝村 六地藏村 三栖村 向嶋村

八ヶ村

高四千三百三拾石六斗四升六合

一、人数三万六百五拾五人

内男老万六千三百七拾人

女老万四千三百八拾五人

一、御香宮 社領三百石

一、藤森 社領三百石

一、寺数 百壹ヶ寺

一、伝馬数 百疋

右之外馬数百三拾疋程も可有之由、

一、牛車数 三百七拾六疋

近年減候而只今は百七拾三疋有之候、

一、橋数五拾七ヶ所 内六ヶ所 公儀橋

豊後橋〈長百四間、横四間五寸〉

京橋〈長三拾三間、横三間六尺〉

肥後橋〈長拾五間半、横四間〉

筋違橋〈長六間三尺、横三間壹尺〉

常円橋〈長三間壹尺、横二間壹尺余〉

六地藏橋〈長拾五間、横三間〉

一、御城山 凡〈東西七町、南北八町〉

一、御役所惣構〈東西百拾七間、南北三百三拾三間〉

伏見奉行支配

一、伏見町中

一、御城山并御林御藪共

一、右紀伊郡之内八ヶ村ハ先規諸大名屋敷跡地方御取ヶ計御代官支配、其外諸事御仕置先規より伏見奉行支配、但川端堤御代官支配ニ而候得共、普請等伏見支配、

道筋

東大津海道勸修寺境迄、但左右之山ハ京都奉行所支配所司代制札有之、

西竹田境杭有之、南小倉海道境杭有之、北稻荷迄町共ニ稻荷支配境有之、宇治海道上嶋境杭有之、六地藏小幡石田ニ境杭有之

伏見奉行は、伏見町・伏見廻り8ヶ村を管轄としている。巨大な宿場町である伏見

の町奉行としての側面と、村々から年貢を徴収する代官としての役割を併せ持っていた。これに加え、旧伏見城（城山）も管理していた点は見逃せないだろう。廃城されたとはいえ、豊臣秀吉が本拠地とし、一時は徳川家康も居城とし、家康・秀忠・家光の3人は、この城で將軍宣下を受けているなど由緒ある城郭であり、その管理は重視されたのではないだろうか。このように伏見奉行は、奉行と代官の役割を併せもっており、いわば、旧来の上方郡代としての任務を、伏見とその周辺だけに限定して存続させたのが伏見奉行であったといえよう。

伏見廻り8ヶ村は、「先規諸大名屋敷跡」でもあった。つまり伏見奉行とは、旧伏見城（城山）・旧大名屋敷（伏見廻り8ヶ村）・旧城下町（伏見町）を一括して管轄しているのである。いわば城持ちの遠国奉行なのであり、だからこそ万石前後の大身旗本・大名によって担われるようになったのである。

なお8ヶ村とは、三栖村122石2斗1升8合、毛利治部村479石2斗8升9合、景勝村265石6斗1合、大亀谷村453石8斗2升8合、六地藏村514石1斗5升8合、向島村606石1斗4升、堀内村1,507石1斗4升6合、深草村577石5斗5升6合で、これに葭島新田649石3升1合を加えた計5,174石9斗6升7合が支配高である<sup>9)</sup>。これらの村々からは、おおよそ二千数百石ほどの年貢収入があったであろう。一方、伏見奉行の役料は3,000俵であった<sup>10)</sup>。幕府における1俵はほぼ3斗5升であるから、年貢収入の半分近くが役料として奉行の収入になっていたと推察できる。

また与力には200石（後には現米80石）、同心には10石3人扶持が与えられた<sup>11)</sup>。与力は10騎、同心は50人であるから、すべて合わせると2,500石（2,500俵）・150人扶持（750俵）となる。伏見廻り8ヶ村の年貢は、奉行・与力・同心への役料・俸禄とほぼ等しいことがわかる。

## 第2章 与力

### ① 与力の職務

伏見奉行は、伏見町を管轄し、周辺農村で五千石以上を領し、山林・道筋・川筋を管理するなど、多彩な業務を任されていた。そのため、奉行は自己の家臣を家老・用人などとして伏見に召し連れてきていたが、与力10騎・同心50人が奉行の職務を支えていた。与力・同心は、奉行の交替に関係なく伏見に在住し、伏見奉行の職務を担っていた。

元禄9年（1696）に伏見奉行が廃止されると、与力・同心は京都町奉行支配へ移され、伏見には与力4騎・同心10人だけが残された（『京都御役所向大概覚書』二17）。だが元禄11年に伏見奉行が復活すると、人数も旧に復している<sup>12)</sup>。以後は、与力・同心の枠組みに変動はない。

与力は、年代によって差があるものの、安永9年（1780）の場合、同心支配（5）・川方（1）・極印改（2）・地方（2）・盗賊改（3）・勘定方（2）・寺社方（3）・山林方（2）・鑄銭座掛（1）などの役割分担が設けられ<sup>13)</sup>、天保12年（1841）には目安方も見える<sup>14)</sup>。これらは、1人で複数の役割を担当しつつ分担していた。同心支配は、与

力の中でも経験のある人物がしていたらしく、若い与力は目安方・山林方・寺社方などの担当から始め、徐々に前にあげた序列をさかのぼり、それにしたがって兼任も増えていったようである。

同心支配は、5人の与力が各10人（計50人）の同心を受けもっている。同心は、長瀬組、大嶋組というように支配となった与力の名を冠せられ、検使をはじめとする職務に与力・同心がしたがっていたようである<sup>15)</sup>。

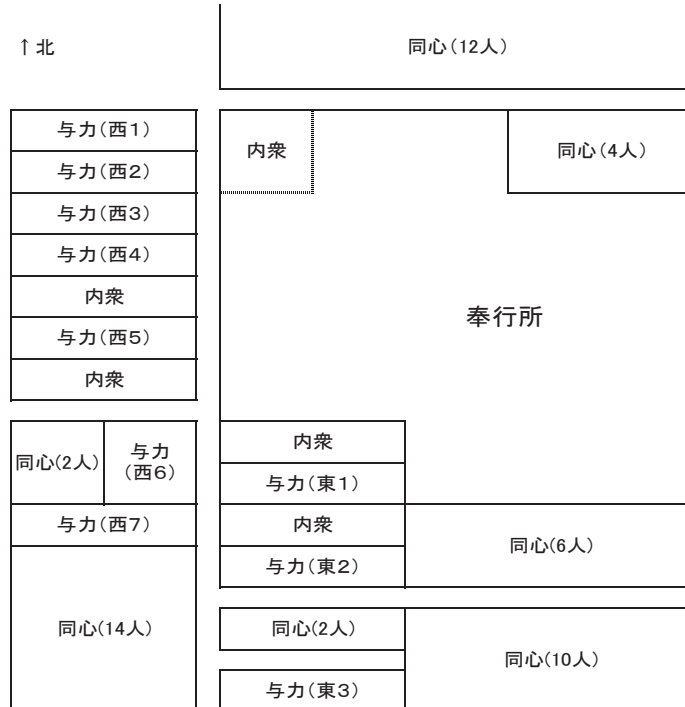
また地方支配では、年貢の収納に関わっていることが、「吉村家文書」などからうかがえる。まず毎年11月ごろに「○年段割帳」と標題に記された帳面を発給する<sup>16)</sup>。これは免定として機能しており、荒・水損などを引いた毛付高が示され、取高が示さ

れる。いわば年貢の請求書である。そこに署判するのが、与力である。また年貢が皆済された際には、「○御年貢米之事」と題する文書を発給し<sup>17)</sup>、皆済目録とするが、そこへの署判は与力数名に奉行内衆（家老・用人）が最低1人加わっている。地方・勘定方の与力が、これらに署名するのであろう。

奉行所においては、奉行への取次を内衆・与力が担っていた。また文書の受付事務については、各方ごとに当番（月番）が定められており、交替で担っていたようである<sup>18)</sup>。

## ② 与力の構成

与力らは、奉行所の近辺に屋敷が与えられていた。その様子を示す図は、元禄12



註) 与力10騎の屋敷は、西側に7軒、東側に3軒あった。西1～7・東1～3の番号は、表4与力一覧(その2)の番号と一致させている。谷直樹編『大工頭中井家建築指図集』(思文閣出版)所収の絵図を参考にした。奉行所の北西隅は、内衆屋敷となっている時期がある。

図1 伏見奉行与力同心屋敷絵図の概略図



年に初めて見いだせ、図1のように配置されていた<sup>19)</sup>。この配置は、以後も変わることなく、奉行所前の通りを挟んで、西側に7軒、東側に3軒があった。それらは必ずしも集中しているわけではなく、奉行家中(家老・用人・内衆)・同心の屋敷と混在している。

元禄12年の史料をはじめ、伏見奉行与力全員の名前が判明する史料には、次のものがある。

- 1 元禄2年(1689)『京羽二重織留』巻之6(『京都叢書』)
- 2 元禄5年(1692)7月18日「御公儀窺之控」(「御香宮神社文書」)
- 3 元禄12年(1699)「伏見与力同心屋敷絵図I」(『中井家絵図』)
- 4 宝永2年(1705)『京羽二重(宝永版)』巻2(『京都叢書』)
- 5 享保4年(1719)「伏見与力同心屋敷絵図II」(『中井家絵図』)
- 6 宝暦4年(1754)『京羽二重織留大全』巻6(『京都叢書』)
- 7 安永9年(1780)『伏見鑑』
- 8 文政11年(1828)『京都府伏見町誌』(伏見町役場, 1929年)
- 9 天保12年(1841)『京都府伏見町誌』(伏見町役場, 1929年)

これらをはじめ、伏見奉行与力として管見に入った人物を、年ごとに示したものが、表2・3である。

寛文期の史料が乏しくほぼわからないが、推定を含め、延宝元年(1673)には5名、延宝3年からは7名を確認できる。元禄2年にはじめて10名全員を確定でき、元禄12年にはそれぞれの屋敷位置も

判明する。そこで一覧表は、屋敷の継承関係がわからない元禄12年以前を表2とした。一方、各与力の屋敷位置が推定できる元禄12年以降は表3とした。屋敷位置は、図1を参照されたい。

表2・3に続けて別表としてそれぞれの典拠をあげている。ただし、全てを示すことは繁雑になるため、1人1年一つずつとした。了解されたい。

### ③ 与力となった経緯 1 上方郡代時代の家臣が継続

早くから与力であったことが確かめられる人々について、その経緯を推定できる場合もある。伏見奉行が上方郡代を継承していることは、初代伏見奉行である水野忠貞が、上方郡代であったことから容易に推測できる。そのため、上方郡代にしたがっていた人物が、そのまま与力となっている可能性が考えられ、実際、同様の経緯をたどっている京都町奉行与力では、上方郡代の家臣が町奉行与力となっている事例を確認できている<sup>20)</sup>。

伏見奉行与力の場合、大嶋勘右衛門がこれに該当する。

18世紀後半に尾張名古屋藩士の由緒をまとめた『士林沂洄続編』には、大嶋小右衛門の祖先が伏見与力であったと記されている<sup>21)</sup>。それによると、因幡鳥取で池田長吉に仕えた大嶋助太夫の子ども勘右衛門(永直)が、池田長吉の没後に伏見奉行水野忠貞に属し、延宝3年に死去したという。実際、『隔墓記』寛文4年(1664)正月晦日条には、水野忠貞のもとを訪ねた鳳林承章に「大嶋勘右衛門」が応対したと記述さ

表2 伏見与力一覧 (その1)

和暦	西暦	奉行	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
寛文6	1666	水野							(大嶋勘右衛門)			
寛文7	1667	水野							(大嶋勘右衛門)			
寛文8	1668	水野							(大嶋勘右衛門)			
寛文9	1669	水野→仙石							(大嶋勘右衛門)			
寛文10	1670	仙石							(大嶋勘右衛門)			
寛文11	1671	仙石							(大嶋勘右衛門)			
寛文12	1672	仙石							(大嶋勘右衛門)			
延宝元	1673	仙石	大塩勘左衛門	長瀬小兵衛	星野云右衛門	木戸郷左衛門						
延宝2	1674	仙石	(大塩勘左衛門)	長瀬久右衛門	(星野云右衛門)	木戸郷左衛門						
延宝3	1675	仙石	大塩勘左衛門	長瀬久右衛門	星野云右衛門	木戸郷左衛門	岡田八左衛門					
延宝4	1676	仙石	大塩勘左衛門	(長瀬)	星野云右衛門	木戸郷左衛門	(白井)					
延宝5	1677	仙石	大塩勘左衛門	(長瀬)	星野云右衛門	木戸郷左衛門	(白井)			横田彦兵衛		
延宝6	1678	仙石	(大塩)	(長瀬)	星野云右衛門		(白井)			横田彦兵衛		
延宝7	1679	仙石	(大塩)	(長瀬)	星野云右衛門		(白井)			横田彦兵衛		
延宝8	1680	仙石	(大塩)	(長瀬)	(星野)		(白井)	岡田儀左衛門		横田彦兵衛		
天和元	1681	仙石	(大塩)	(長瀬)	星野五郎右衛門		(白井)	岡田儀左衛門		(横田)	伊丹太兵衛	
天和2	1682	戸田	(大塩)	(長瀬)	星野五郎右衛門		(白井)	岡田儀左衛門		(横田)	伊丹太兵衛	
天和3	1683	戸田	(大塩)	長瀬久右衛門	星野五郎右衛門		(白井)	岡田儀左衛門		(横田)	伊丹太兵衛	
貞享元	1684	戸田	(大塩)	長瀬久右衛門	星野五郎右衛門		(白井)			(横田)	(伊丹)	
貞享2	1685	戸田	大塩弥右衛門	長瀬久右衛門	星野五郎右衛門		(白井)			(横田)	(伊丹)	
貞享3	1686	戸田→岡田	大塩弥右衛門	長瀬久右衛門	(星野五郎右衛門)		白井五左衛門			(横田)	(伊丹)	
貞享4	1687	岡田	大塩弥右衛門	長瀬久右衛門	(星野五郎右衛門)		白井五左衛門			(横田)	(伊丹)	
元禄元	1688	岡田	大塩弥右衛門	長瀬久右衛門	(星野五郎右衛門)		白井五左衛門	藤林三右衛門		横田彦左衛門	(伊丹)	
元禄2	1689	岡田	大塩弥右衛門	長瀬久右衛門	星野五郎右衛門	津田五太夫	白井五左衛門	藤林三右衛門	広沢茂左衛門	横田彦左衛門	伊丹弥平次	林 権太夫
元禄3	1690	岡田	(大塩弥右衛門)	(長瀬久右衛門)		(津田五太夫)	白井五左衛門	藤林三右衛門		横田彦左衛門	(伊丹弥平次)	林 権太夫
元禄4	1691	岡田	(大塩弥右衛門)	(長瀬久右衛門)		(津田五太夫)	(白井五左衛門)	藤林三右衛門		横田彦左衛門	(伊丹弥平次)	林 権太夫
元禄5	1692	岡田	大塩弥右衛門	長瀬久右衛門	石黒小藤太	津田五太夫	白井五左衛門	藤林三右衛門		横田彦左衛門	伊丹弥平次	林 権太夫
元禄6	1693	岡田	(大塩弥右衛門)	(長瀬久右衛門)	石黒小藤太	(津田五太夫)	白井五左衛門	(藤林三右衛門)		横田彦左衛門	(伊丹弥平次)	(林 権太夫)
元禄7	1694	岡田→青山	大塩弥右衛門	長瀬久右衛門	(石黒小藤太)	津田五太夫	白井五左衛門	藤林三右衛門		横田彦左衛門	伊丹弥平次	林 権太夫
元禄8	1695	青山	大塩弥右衛門	(長瀬)	(石黒小藤太)	(津田)	大嶋勘右衛門			(横田彦左衛門)		林 権太夫
元禄9	1696	青山→×	(大塩)	(長瀬)	石黒小藤太	(津田)	(大嶋勘右衛門)			(横田彦左衛門)		
元禄10	1697	×	(大塩)	(長瀬)	(津田)	(津田)	(大嶋勘右衛門)			(横田彦左衛門)		
元禄11	1698	×	(大塩)	長瀬喜八郎	伊出忠左衛門	津田順右衛門	(大嶋勘右衛門)			横田彦左衛門		
元禄12	1699	建部	大塩藤八	長瀬喜八郎	伊出忠左衛門	津田順右衛門	大嶋勘右衛門	岡田助之進	杉山平太左衛門	横田彦左衛門	三輪源太兵衛	村上権太夫

註) 表3とは違い、邸宅地の継承と関係なく、便宜的に人名を配置している。  
( ) 付は、推定。林権太夫と村上権太夫は、同一人物かもしれない。

表3-1 伏見奉行与力一覧（その2）

和暦	西暦	奉行	邸宅地									
			西1	西2	西3	西4	西5	西6	西7	東1	東2	東3
元禄12	1699	建部	村上權大夫	津田順右衛門	岡田助之進	長瀬喜八郎	大堀藤八	杉山平太左衛門	三輪源太兵衛	大嶋勘右衛門	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
元禄13	1700	建部	(村上權大夫)	(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)		(杉山平太左衛門)	(三輪)	(大嶋勘右衛門)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
元禄14	1701	建部	(村上權大夫)	(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)		(杉山平太左衛門)	(三輪)	(大嶋勘右衛門)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
元禄15	1702	建部	村上權大夫	(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)		杉山平太左衛門	(三輪)	大嶋勘右衛門	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
元禄16	1703	建部	村上權大夫	(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)		(杉山)	(三輪)	大嶋勘右衛門	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
宝永元	1704	建部		(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)		(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
宝永2	1705	建部		(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)		(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
宝永3	1706	建部		(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
宝永4	1707	建部		(津田)	岡田助之進	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
宝永5	1708	建部		(津田)	岡田助之進	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
宝永6	1709	建部		(津田)	岡田助之進	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
宝永7	1710	建部		(津田)	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
正徳元	1711	建部	小泉	津田	岡田(助之進)	長瀬	芦谷小右衛門	杉山	三輪	大嶋	横田彦左衛門	伊出忠左衛門
正徳2	1712	建部	(小泉)	津田順右衛門	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	伊出忠左衛門
正徳3	1713	建部	(小泉)	津田順右衛門	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	伊出忠左衛門
正徳4	1714	建部	(小泉)	津田唯右衛門	岡田助之進	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(伊出忠左衛門)
		→石川										
正徳5	1715	石川	(小泉)	(津田唯右衛門)	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(伊出忠左衛門)
享保元	1716	石川	(小泉)	津田唯右衛門	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(伊出忠左衛門)
享保2	1717	石川	(小泉)	津田唯右衛門	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(伊出忠左衛門)
享保3	1718	石川	(小泉)	津田唯右衛門	(岡田助之進)	(長瀬)	芦谷小右衛門	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(伊出忠左衛門)
享保4	1719	石川	小泉伊太夫	津田順右衛門	岡田助之進	長瀬久右衛門	芦谷小右衛門	杉山六郎兵衛	三輪源五右衛門	大嶋七郎左衛門	横田彦兵衛	伊出忠左衛門
享保5	1720	石川	(小泉)	津田唯右衛門	岡田助之進	(長瀬)		(杉山六郎兵衛)	(三輪源五右衛門)	大嶋七郎左衛門	横田彦兵衛	
		→北条										
享保6	1721	北条	(小泉)	津田順右衛門	(岡田)	(長瀬)		(杉山六郎兵衛)	三輪源五右衛門	(大嶋七郎左衛門)	(横田)	
享保7	1722	北条	(小泉)	津田順右衛門	(岡田)	(長瀬)		(杉山六郎兵衛)	(三輪)	(大嶋七郎左衛門)	(横田)	
享保8	1723	北条	小泉貞右衛門	(津田順右衛門)	(岡田)	(長瀬)		杉山六郎兵衛	(三輪)	(大嶋七郎左衛門)	(横田)	
享保9	1724	北条	小泉貞右衛門	(津田順右衛門)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	杉山六郎兵衛	(三輪)	(大嶋七郎左衛門)	(横田)	
享保10	1725	北条	小泉貞右衛門	(津田順右衛門)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山六郎兵衛)	(三輪)	(大嶋七郎左衛門)	(横田)	
享保11	1726	北条	小泉貞右衛門	(津田順右衛門)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山六郎兵衛)	(三輪)	(大嶋七郎左衛門)	(横田)	
享保12	1727	北条	小泉貞右衛門	(津田順右衛門)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山六郎兵衛)	(三輪)	(大嶋七郎左衛門)	(横田)	
享保13	1728	北条	小泉貞右衛門	(津田順右衛門)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山六郎兵衛)	(三輪)	大嶋七郎左衛門	(横田)	
享保14	1729	北条	小泉貞右衛門	(津田順右衛門)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山六郎兵衛)	(三輪)	大嶋七郎左衛門	(横田)	
享保15	1730	北条	小泉貞右衛門	津田順右衛門	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	杉山六郎兵衛	(三輪)	(大嶋)	(横田)	
享保16	1731	北条	小泉貞右衛門	(津田)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	
享保17	1732	北条	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井伝之丞)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	
享保18	1733	北条	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井伝之丞)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	
享保19	1734	北条	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井伝之丞)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	
		→小堀										
享保20	1735	小堀	(小泉)	津田順右衛門	岡田助之進	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田丹治	
元文元	1736	小堀	(小泉)	津田順右衛門	岡田儀左衛門	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田丹治	
元文2	1737	小堀	(小泉)	津田順右衛門	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田丹治	
元文3	1738	小堀	(小泉)	津田順右衛門	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	横田丹治	
元文4	1739	小堀	(小泉)	津田順右衛門	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	横田丹治	
元文5	1740	小堀	(小泉)	津田為右衛門	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	横田丹治	
寛保元	1741	小堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	横田三郎左衛門	
寛保2	1742	小堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	横田三郎左衛門	
寛保3	1743	小堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	横田三郎左衛門	
延享元	1744	小堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	長瀬久右衛門	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	横田三郎左衛門	
延享2	1745	小堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪源五右衛門)	(大嶋)	(横田)	小野三郎左衛門
延享3	1746	小堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪源五右衛門)	(大嶋)	(横田)	小野三郎左衛門
		→菅沼										
延享4	1747	菅沼	(小泉)	(津田)	岡田長次郎	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	(横田)	小野三郎左衛門
寛延元	1748	菅沼	(小泉)	(津田)	(岡田長次郎)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪源五右衛門)	(大嶋)	(横田)	小野三郎左衛門
寛延2	1749	菅沼	(小泉)	(津田)	(岡田長次郎)	(長瀬)	村井伝之丞	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	(横田)	(小野三郎左衛門)
寛延3	1750	菅沼	小泉伊蔵	(津田)	(岡田長次郎)	(長瀬)	村井伝之丞	杉山藤右衛門	(三輪源五右衛門)	(大嶋)	(横田)	小野三郎左衛門
宝暦元	1751	菅沼	(小泉)	(津田)	(岡田長次郎)	(長瀬)	(村井伝之丞)	(杉山)	(三輪源五右衛門)	(大嶋)	(横田)	(小野)
		→堀										
宝暦2	1752	堀	(小泉)	(津田)	(岡田長次郎)	(長瀬)	(村井伝之丞)	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋)	(横田)	(小野)
宝暦3	1753	堀	(小泉)	(津田)	(岡田長次郎)	(長瀬)	(村井伝之丞)	(杉山)	(三輪源五右衛門)	(大嶋)	(横田)	(小野)
宝暦4	1754	堀	小泉伊蔵	津田為右衛門	岡田長次郎	長瀬久右衛門	村井伝之丞	杉山藤兵衛	三輪源五右衛門	大嶋千蔵	横田五市郎	小野三郎右衛門
宝暦5	1755	堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪源五右衛門)	(大嶋千蔵)	(横田)	(小野三郎右衛門)
宝暦6	1756	堀	小泉伊蔵	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋千蔵)	(横田)	(小野三郎右衛門)
宝暦7	1757	堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	三輪源五右衛門	(大嶋千蔵)	(横田)	小野三郎右衛門
宝暦8	1758	堀	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	小野三郎右衛門
		久留島										
宝暦9	1759	久留島	小泉貞右衛門	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	小野三郎右衛門・小野三郎左衛門
		→本多										
宝暦10	1760	久留島	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋千蔵)	(横田)	小野三郎左衛門
宝暦11	1761	久留島	(小泉)	(津田)	岡田文左衛門	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	(小野三郎左衛門)
宝暦12	1762	久留島	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	小野三郎左衛門
宝暦13	1763	久留島	(小泉)	(津田)	(岡田)	長瀬九郎右衛門	村井伝之丞	(杉山)	(三輪)	(大嶋千蔵)	(横田)	小野三郎左衛門
明和元	1764	久留島	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬九郎右衛門)	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	小野三郎左衛門
		→本多										
明和2	1765	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬九郎右衛門)	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	小野三郎左衛門
明和3	1766	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	長瀬九郎右衛門	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	小野三郎左衛門
明和4	1767	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	長瀬九郎右衛門	(村井)	(杉山)	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	小野三郎左衛門
明和5	1768	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
明和6	1769	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
明和7	1770	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)



表3-2 伏見奉行与力一覧(その2)

和暦	西暦	奉行	邸宅地									
			西1	西2	西3	西4	西5	西6	西7	東1	東2	東3
明和8	1771	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永元	1772	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永2	1773	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永3	1774	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永4	1775	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永5	1776	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永6	1777	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(長瀬)	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永7	1778	本多 →小堀	小泉閔七郎	(津田)	(岡田)	長瀬六左衛門	(村井)	(杉山)	(三輪)	(大嶋)	(横田)	(小野)
安永8	1779	小堀	(小泉)	(津田)	岡田文左衛門	長瀬五郎左衛門	村井伝之丞	杉山郷右衛門	(三輪)	大嶋千蔵	(横田)	(小野)
安永9	1780	小堀	小泉恵三郎	津田順右衛門	岡田文左衛門 ・恒次郎	長瀬五郎左衛門	村井伝之丞	杉山郷右衛門	三輪源太右衛門	大嶋千蔵 ・学次郎	横田彦十郎	小野三十郎
天明元	1781	小堀	(小泉)	(津田順右衛門)	岡田文左衛門	長瀬五郎左衛門	村井伝之丞	(杉山郷右衛門)	三輪源太左衛門	大嶋学次郎	(横田)	小野三十郎
天明2	1782	小堀	小泉恵七郎	(津田順右衛門)	岡田文左衛門 ・官次郎	長瀬五郎左衛門	村井伝之丞	杉山郷右衛門	(三輪源太右衛門)	大嶋学次郎	(横田)	小野三十郎
天明3	1783	小堀	小泉勘八郎	(津田順右衛門)	岡田文左衛門 ・健次郎	長瀬五郎左衛門	村井伝之丞	(杉山郷右衛門)	(三輪源太右衛門)	大嶋学次郎	(横田)	小野三十郎
天明4	1784	小堀	小泉勘八郎	(津田順右衛門)	岡田文左衛門	長瀬五郎左衛門	(村井伝之丞)	(杉山郷右衛門)	(三輪源太右衛門)	(大嶋学次郎)	(横田)	小野三十郎
天明5	1785	小堀→ 久留島	(小泉勘八郎)	津田順右衛門	岡田文左衛門 ・官次郎	長瀬五郎左衛門 ・孫八郎	村井伝之丞	杉山郷右衛門	三輪源太右衛門	(大嶋学次郎)	(横田)	小野三十郎
天明6	1786	久留島	小泉勘八郎	(津田)	(岡田文左衛門)	長瀬五郎左衛門 ・孫八郎	(村井伝之丞)	(杉山)	(三輪源太右衛門)	(大嶋学次郎)	(横田)	小野三十郎
天明7	1787	久留島	(小泉勘八郎)	(津田)	(岡田文左衛門)	(長瀬五郎左衛門 ・孫八郎)	村井伝之丞	(杉山)	(三輪源太右衛門)	(大嶋学次郎)	横田彦兵衛	(小野三十郎)
天明8	1788	久留島	小泉勘八郎	(津田)	岡田文左衛門 ・恒次郎	長瀬五郎左衛門 ・孫八郎	村井伝之丞	(杉山)	三輪源太右衛門	大嶋学次郎	横田彦兵衛	小野三十郎
寛政元	1789	久留島	(小泉)	(津田)	岡田健次郎	長瀬作十郎	村井伝之丞	(杉山)		大嶋学次郎	(横田彦兵衛)	(小野)
寛政2	1790	久留島	(小泉)	(津田)	(岡田健次郎)	長瀬作十郎	(村井)	(杉山)		大嶋学次郎	(横田彦兵衛)	小野三十郎
寛政3	1791	久留島 →本庄	小泉恵七郎	(津田)	岡田健次郎 ・良左衛門	長瀬作十郎	村井千太郎	(杉山)		大嶋学次郎	(横田彦兵衛)	(小野三十郎)
寛政4	1792	本庄	(小泉恵七郎)	(津田)	岡田健次郎	長瀬五郎左衛門 ・鉄九郎	(村井)	(杉山)		大嶋学次郎	横田彦兵衛	小野三十郎
寛政5	1793	本庄	(小泉恵七郎)	(津田)	岡田健次郎		(村井)	(杉山)		大嶋学次郎	横田彦兵衛	(小野)
寛政6	1794	本庄	(小泉恵七郎)	(津田)	(岡田健次郎)		(村井)	(杉山)		(大嶋学次郎)	(横田)	(小野)
寛政7	1795	本庄 →松平	(小泉恵七郎)	(津田)	岡田健次郎		(村井)	(杉山)		大嶋学次郎	(横田)	(小野)
寛政8	1796	松平	(小泉恵七郎)	(津田)	岡田健次郎		(村井)	(杉山)		大嶋学次郎	(横田)	(小野)
寛政9	1797	松平	(小泉恵七郎)	(津田)	(岡田健次郎)		(村井)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
寛政10	1798	松平	小泉恵七郎	(津田)	岡田健次郎		村井伝之丞 ・百助	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
寛政11	1799	松平	(小泉)	(津田)	(岡田健次郎)		(村井伝之丞 ・百助)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
寛政12	1800	松平 →加納	(小泉)	(津田)	岡田健次郎		村井伝之丞 ・百助	(杉山)		(大嶋)	(横田)	小野三十郎
享和元	1801	加納	小泉伊蔵	津田為右衛門	岡田健次郎	棚橋熊之助	村井伝之丞	(杉山)		(大嶋)	(横田)	小野三十郎
享和2	1802	加納	(小泉伊蔵)	(津田為右衛門)	(岡田)	(棚橋熊之助)	(村井)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
享和3	1803	加納	(小泉伊蔵)	(津田為右衛門)	岡田恒治郎	(棚橋熊之助)	(村井)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文化元	1804	加納	(小泉伊蔵)	(津田為右衛門)	(岡田)	(棚橋熊之助)	(村井)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文化2	1805	加納	(小泉伊蔵)	(津田為右衛門)	(岡田)	(棚橋熊之助)	(村井)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文化3	1806	加納	(小泉伊蔵)	(津田為右衛門)	岡田健次郎	(棚橋熊之助)	(村井)	杉山覚兵衛		(大嶋)	(横田)	小野三十郎
文化4	1807	加納	小泉伊蔵	津田為右衛門	岡田健次郎	棚橋熊之助	(村井)	杉山覚兵衛		(大嶋)	(横田)	小野三十郎
文化5	1808	×	(小泉)	(津田為右衛門)	岡田健次郎	(棚橋熊之助)	(村井)	杉山覚兵衛		(大嶋)	(横田)	(小野三十郎)
文化6	1809	×	(小泉)	(津田為右衛門)	岡田健次郎	棚橋熊之助	(村井)	杉山覚兵衛		(大嶋)	(横田)	(小野三十郎)
文化7	1810	×	小泉喜三郎	津田為右衛門	岡田良左衛門	棚橋熊之助	村井平三郎	杉山覚兵衛		大嶋勘右衛門	横田彦五郎 ・五一郎	小野三十郎
文化8	1811	本多	(小泉喜三郎)	(津田)	(岡田)	(棚橋熊之助)	(村井平三郎)	(杉山覚兵衛)		(大嶋勘右衛門)	(横田五一郎)	小野三十郎
文化9	1812	本多	小泉喜三郎	(津田)	(岡田)	(棚橋熊之助)	(村井平三郎)	杉山覚兵衛		大嶋勘右衛門	横田五一郎	(小野)
文化10	1813	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋熊之助)	(村井平三郎)	(杉山覚兵衛)		(大嶋)	(横田五一郎)	(小野)
文化11	1814	本多	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋熊之助)	(村井平三郎)	(杉山覚兵衛)		(大嶋)	(横田五一郎)	(小野)
文化12	1815	丹羽	小泉伊兵衛	津田永助	(岡田)	(棚橋熊之助)	村井平三郎	杉山覚兵衛		(大嶋)	横田五一郎	(小野)
文化13	1816	丹羽	小泉伊兵衛	(津田)	岡田文左衛門 ・暹平	棚橋熊之助	村井平三郎	(杉山覚兵衛)		(大嶋)	横田五一郎	(小野)
文化14	1817	丹羽	(小泉伊兵衛)	(津田)	(岡田文左衛門)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山覚兵衛)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政元	1818	丹羽	小泉伊兵衛	(津田)	岡田文左衛門	(棚橋)	村井平三郎	杉山覚兵衛		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政2	1819	丹羽 →仙石	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政3	1820	仙石	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政4	1821	仙石	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政5	1822	仙石	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政6	1823	仙石 →堀田	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政7	1824	堀田	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政8	1825	堀田	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政9	1826	堀田	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政10	1827	堀田 →本庄	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井平三郎)	(杉山)		(大嶋)	(横田)	(小野)
文政11	1828	本庄	小泉祐太夫	津田五太夫	岡田祐之進 ・健三郎	(棚橋)	村井平三郎 ・伝之丞	(杉山)	岡田耕之丞	大嶋栄次郎	横田彦十郎	小野三十郎
文政12	1829	本庄	(小泉祐太夫)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田彦十郎)	(小野三十郎)
天保元	1830	本庄	(小泉祐太夫)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田彦十郎)	(小野三十郎)
天保2	1831	本庄	(小泉祐太夫)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田彦十郎)	(小野三十郎)

表3-3 伏見奉行与力一覧(その2)

和暦	西暦	奉行	邸宅地									
			西1	西2	西3	西4	西5	西6	西7	東1	東2	東3
天保2	1831	本庄	(小泉祐太夫)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田彦十郎)	(小野三十郎)
天保3	1832	本庄	小泉祐太夫	(津田)	(岡田)	棚橋兵左衛門	村井伝之丞	(杉山)	岡田耕之丞	大嶋学次郎	横田彦十郎	小野三十郎
天保4	1833	本庄 →加納	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋兵左衛門)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋学次郎)	(横田彦十郎)	(小野三十郎)
天保5	1834	加納	小泉伊太夫	(津田)	岡田文左衛門	棚橋兵左衛門	村井伝之丞	(杉山)	岡田耕之丞	大嶋学次郎	横田彦十郎	小野三十郎
天保6	1835	加納	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋兵左衛門)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田)	(小野)
天保7	1836	加納	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋兵左衛門)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田)	(小野)
天保8	1837	加納	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋兵左衛門)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田)	(小野)
天保9	1838	加納 →内藤	(小泉)	(津田)	岡田祐之進	(棚橋兵左衛門)	村井伝之丞	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田)	(小野)
天保10	1839	内藤	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋兵左衛門)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田)	(小野)
天保11	1840	内藤	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋兵左衛門)	(村井伝之丞)	(杉山)	(岡田耕之丞)	(大嶋)	(横田)	(小野)
天保12	1841	内藤	小泉伊織	津田貞三郎	岡田祐之進 ・祐一	棚橋兵左衛門	村井伝之丞 ・平三郎	杉山藤三郎 ・左右介	岡田耕之丞	大嶋助 ・邦次郎	横田孫太郎	小野三十郎 ・弥一郎
天保13	1842	内藤	(小泉伊織)	(津田貞三郎)	(岡田祐之進)	(棚橋)	(村井伝之丞 ・平三郎)	(杉山左右介)	(岡田耕之丞)	(大嶋助 ・邦次郎)	(横田孫太郎)	(小野三十郎)
天保14	1843	内藤	(小泉伊織)	(津田貞三郎)	(岡田祐之進)	(棚橋)	(村井伝之丞 ・平三郎)	(杉山左右介)	(岡田耕之丞)	(大嶋助 ・邦次郎)	(横田孫太郎)	(小野三十郎)
弘化元	1844	内藤	小泉伊織	津田貞三郎	岡田祐之進	棚橋慎平	村井伝之丞 ・平三郎	杉山左右介	(岡田耕之丞)	大嶋助 ・(邦次郎)	横田孫太郎	(小野三十郎)
弘化2	1845	内藤	(小泉)	(津田貞三郎)	岡田祐之進	棚橋慎平	村井平三郎	杉山左右介	岡田耕之丞	大嶋助 ・(邦次郎)	(横田)	小野三十郎
弘化3	1846	内藤	(小泉)	(津田貞三郎)	(岡田)	(棚橋)	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋助 ・邦次郎)	(横田)	(小野三十郎)
弘化4	1847	内藤	(小泉)	(津田貞三郎)	(岡田)	(棚橋)	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋助 ・邦次郎)	(横田)	(小野三十郎)
嘉永元	1848	内藤	(小泉)	(津田貞三郎)	(岡田)	(棚橋)	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋助 ・邦次郎)	(横田)	(小野三十郎)
嘉永2	1849	内藤	(小泉)	(津田貞三郎)	(岡田)	(棚橋)	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋助 ・邦次郎)	(横田)	(小野三十郎)
嘉永3	1850	内藤	(小泉)	(津田貞三郎) ・為助	岡田祐一	(棚橋)	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋助 ・邦次郎)	(横田)	(小野三十郎) ・弥一郎
嘉永4	1851	内藤	(小泉)	津田貞三郎 ・為助	(岡田)	(棚橋)	(村井)	(杉山)	(岡田)	大嶋助 ・邦次郎	(横田)	小野三十郎 ・弥一郎
嘉永5	1852	内藤	(小泉)	(津田為助) ・佐太郎	(岡田)	(棚橋)	村井栄治郎	杉山繁太郎	(岡田)	大嶋助 ・(邦次郎)	(横田)	小野三十郎 ・弥一郎
嘉永6	1853	内藤	(小泉)	津田為助	(岡田)	(棚橋)	(村井栄治郎)	(杉山)	(岡田)	大嶋邦次郎	(横田)	小野弥一郎
安政元	1854	内藤	(小泉)	(津田為助)	(岡田)	(棚橋)	(村井栄治郎)	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	(横田)	(小野弥一郎)
安政2	1855	内藤	小泉泰吉郎	(津田為助)	(岡田)	(棚橋)	(村井栄治郎)	(杉山)	(岡田)	大嶋邦次郎	(横田)	小野弥一郎
安政3	1856	内藤	小泉泰吉郎	(津田為助)	(岡田)	棚橋金四郎	(村井栄治郎)	(杉山)	(岡田)	大嶋邦次郎	(横田)	(小野弥一郎)
安政4	1857	内藤	(小泉泰吉郎)	(津田為助)	(岡田)	(棚橋金四郎)	(村井栄治郎)	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	(横田)	(小野弥一郎)
安政5	1858	内藤	(小泉泰吉郎)	(津田為助)	(岡田)	(棚橋金四郎)	(村井栄治郎)	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	(横田)	(小野弥一郎)
安政6	1859	内藤 →林	小泉泰吉郎	(津田為助)	岡田芳太郎	棚橋金四郎 ・源平太	村井栄治郎	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	(横田)	(小野弥一郎)
万延元	1860	林	(小泉)	(津田為助)	(岡田芳太郎)	(棚橋金四郎) ・源平太	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	(横田)	(小野弥一郎)
文久元	1861	林	(小泉)	(津田為助)	(岡田芳太郎)	(棚橋金四郎) ・源平太	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	(横田)	(小野弥一郎)
文久2	1862	林	(小泉)	(津田為助)	(岡田芳太郎)	(棚橋金四郎) ・源平太	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	横田蔵之助	小野弥一郎
文久3	1863	林	(小泉)	津田為助 ・養蔵	岡田芳太郎	棚橋金四郎 ・源平太	村井榮五郎 ・要	(杉山)	岡田管之助	(大嶋邦次郎)	(横田蔵之助)	(小野弥一郎)
元治元	1864	林	(小泉)	津田為助 ・養蔵	(岡田芳太郎)	棚橋金四郎 ・源平太	村井 要	(杉山)	(岡田)	大嶋邦次郎	(横田蔵之助)	(小野弥一郎)
慶応元	1865	林	(小泉)	津田為助 ・養蔵	岡田芳太郎	棚橋金四郎 ・源平太	村井 要	(杉山)	(岡田)	(大嶋邦次郎)	(横田蔵之助)	(小野弥一郎)
慶応2	1866	林	(小泉)	津田養蔵	(岡田)	棚橋金四郎 ・源平太	村井 要 (要人)	(杉山)	(岡田)	大嶋邦次郎	(横田蔵之助)	小野弥一郎
慶応3	1867	林→×	小泉篤太郎	津田為助	岡田勝馬	棚橋源平太	村井要人	杉山弥吉	岡田又一	大嶋邦次郎	横田蔵之助	小野弥一郎
明治元	1868	×	(小泉)	(津田)	(岡田)	(棚橋)	(村井)	(杉山)	(岡田)	(大嶋)	(横田)	(小野)

註) 西4・西7の寛政元年以降は、推定。逆の可能性もある。  
邸宅地については、図1参照。( )内の人名は、推定。

れている。

与力大嶋氏はその後も、延宝6・7年(1678・1679)に助太夫の名を見いだせるが、『士林沂沕続編』には助太夫はあられない。表2のように、大嶋氏は元禄2年までに与力から退いているが、元禄8年までに与力へ復している。元禄8年からあら

われる大嶋勘右衛門は、『士林沂沕続編』でも勘右衛門(誰永)としてあられ、正徳2年(1712)に死去したと記される。このように情報に小異はあるものの、同一家系のことを指していることは間違いない。

以後『士林沂沕続編』には、勘右衛門(誰永)の子どもに勘左衛門(近長)・藤右衛門

(範重)の2名が記され、弟・藤右衛門が正徳2年に尾張藩士に召しだされ、正徳5年に知行150石を与えられている。一方、兄・勘左衛門は享保12年(1727)になってから尾張藩士に召しだされ、延享4年(1747)に知行100石を与えられたという。系図上、この世代には伏見与力の記述は見えない。

しかし大嶋氏は、勘右衛門(誰永)の後も伏見与力として存続している。享保3～14年(1718～1729)には、断続的に大嶋七郎左衛門の名が見いだせ、以後も大嶋氏が継承している。この大嶋氏が勘右衛門(誰永)の子孫であることは、その屋敷の位置が同じであることなどから間違いないが、『士林沂洄続編』にはまったくあられない。与力の地位を受けついで七郎左衛門は、勘右衛門(誰永)の子弟であろう。

伏見与力は200石(または現米80石)を給されている。待遇だけを比較するならば、150～100石の尾張藩士よりもやや多いものの大差はない。

なお『隔莫記』からは、水野忠貞の家臣として他にも3名を見いだせる<sup>22)</sup>。また同時期に京都で活動していた京都所司代の板倉重宗・牧野親成、上方郡代の五味豊直、京都代官の鈴木重辰らの家臣も数多くあられ、苗字も70種ほどにのぼる<sup>23)</sup>。だがそれらのうち、初期の伏見奉行与力と同じ苗字の人物は、五味家臣の木戸彦兵衛・白井喜兵衛、板倉家臣の横田清左衛門という3人しかいない。

同じ代官奉行とはいえ、五味は京都、水野は伏見にいた上、五味配下の木戸氏後裔は、江戸へ移りすんで幕府旗本となってい

る。同一人物ではないため確証に欠けるが、参考として記し、関係者である可能性は残しておきたい。

#### ④ 与力となった経緯2 旗本・藩士・与力の子弟

・石黒小藤太の場合

先稿では、与力が奉行の近親者など、幕府旗本の子弟から選ばれたことも指摘している。伏見奉行与力の場合、そのような経緯の事例として、石黒小藤太が指摘できる。

石黒小藤太は、旗本石黒政澄(130俵)の次男であり、『寛政重修諸家譜』巻第1448によると、元禄2年(1689)に伏見奉行与力となっている。だが「石黒三十郎のこと」(『翁草』巻第8)によると、父政澄が元禄6年に罪科を得て改易されたため、小藤太は「由緒」があった岡田善次(伏見奉行)を頼り、たまたま空席があったため、与力になったという。

実際には、小藤太は元禄5年から与力として確認できるので、『寛政譜』の記述にしたがうが、与力登用の経緯が奉行岡田との「由緒」であったことは事実ではないだろうか。具体的内容までは判然としないが、父政澄は上方で代官として活動しており、そこで伏見奉行岡田との間に「由緒」が生じ、小藤太が与力となったのではないだろうか。

なお小藤太はその後、伏見奉行の一時廃止を機に京都町奉行与力へ転じ、その子どもである石黒三十郎は、延享元年(1744)に幕府旗本(御勘定、現米80石)へと転じている。石黒家は、伏見奉行与力→京都町

奉行与力→幕府旗本と地位を変えていったが、その待遇は200石→現米80石であり、大差のないことがわかる。

#### ・周辺地の与力との関係

待遇の似通ったところから供給されると想定するならば、もっとも近いのは近隣地域の与力であろう。伏見は大坂とは淀川で、京都とは高瀬川で結ばれているように、京坂の中央に位置しており、京都・大坂との関係が想定できる。そして与力は、京都では京都所司代・京都町奉行・禁裏附等に、大坂では大坂町奉行・大坂定番・船手奉行等に配されている。表4には、伏見奉行与力であったことが確実な人物の苗字と、各地の与力の苗字を比較した結果を示している。なお比較は、享保年間を下限とした。それ以降になると、変化が限られる上、多くが既存与力の分家であることが推測されるため、省いた。

表4からは、伏見奉行与力と同姓の与力

表4 共通する与力苗字（享保以前）

伏見奉行	京都	大坂
芦谷	東町奉行・所司代	
石黒	東町奉行	
伊丹		
伊出		
白井		
大塩		東町奉行
大嶋	所司代	
岡田	所司代	
木戸		
小泉		東町奉行
杉山		定番(玉造口)
津田		御船
戸田	所司代	定番(京橋口)
長瀬		
林		定番(玉造口)
広沢		
藤林		
星野	所司代	
三輪	所司代	
村井		定番(玉造口)
村上		東町奉行
横田		定番(京橋口)

が、京都・大坂に多くいることが判明する。もちろん苗字が同じであるからといって、出自が同じであるとは限らない。しかし数ある苗字の中で、その多くが周辺地域の与力と共通しているという事実は、何らかの関係があったことを推測させる。

たとえば大塩氏は、大坂町奉行与力の一族と推測されるが、その本家は尾張藩士であった。京都町奉行与力の西尾氏も尾張藩士の出身である<sup>24)</sup>。伏見においても、大嶋氏は尾張藩士と関係があった。尾張藩は、伏見に藩邸が所在している上、徳川方の巨大な家臣団が存在している。上方における与力の何らかの縁故があったのかもしれない。

#### ⑤ 与力編成の特徴

京都町奉行与力の場合、奉行の近親者が与力となる事例がみられた。ところが伏見奉行の場合、そのような事例がまったく見出せない。奉行の近親者に、与力と同姓の者すら見いだせない。伏見奉行と京都町奉行とでは、与力の選出手法が大きく異なるのである。対して、双方の与力の待遇に目を向けると、そこにはほとんど差がない。

大きく異なるのは、両奉行の地位である。京都町奉行は、数百～2,000石未満の旗本であることが多い。そのため、縁者にも200石程度の者が多く見いだせる。そもそも京都町奉行とその与力とは、身分的にも近い存在だったのである。そのため、与力候補者も縁者の中から選びだせたのだろう。だが既述のとおり、初期の伏見奉行は旗本とはいえ5,000石以上である場合が多い。京都町奉行や与力候補者よりも、身



分・地位が高いのである。そのため、伏見奉行本人の縁者には、200石程度でしかない与力にふさわしい者が少ないのである。奉行と与力との差が大きすぎるため、奉行縁者は与力候補者とされにくかったのであろう。京都町奉行と伏見奉行の出身母体の差が、与力選出手法にも反映していたのである。

#### ⑥ その後の変遷

伏見奉行与力の変遷には、大きな画期が2度ある。一つは、元禄9～11年の廃止である。これにより伏見奉行与力は、京都町奉行のもとへ移され、4騎だけが伏見に滞在した。元禄11年に伏見奉行が復活すると、旧の如く10騎が伏見に置かれたが、その際、大幅な入れ替わりがおこっている。

表2によると、元禄2年に判明する全与力は、伊丹・白井<sup>25)</sup>・大塩・津田・長瀬・林・広沢・藤林・星野・横田である。数年の内に伊丹・広沢・星野の3家が退き、代わって石黒があらわれる。そしてさらに白井・林・藤林の3家が姿を消し、大嶋が与力に戻ってくる。

本来、与力は一代限りの召し抱えであった。後には世襲のようになっていくが、このころはまだ本来の有様が継続しており、世代交代（与力の死去）にともなって頻繁に変化していることがわかる。元禄9年段階の与力は、6家だけが判明するが、残り4騎（4家）の内には、空席となっているものもあったであろう。

そして元禄9年の廃止、元禄11年の復活を経ると、元禄12年に判明する全員は、

大きく変化している。廃止以前に在職が判明していた6家の内、石黒だけが京都町奉行与力へ移り、大塩・大嶋・津田・長瀬・横田は伏見へ戻ってくる。そして伊出・岡田・杉山・三輪・村上の5家が新たにあらわれるが、このうちいくつかは、以前から伏見与力であった可能性がある。そしてこの復活以後、享保年間半ばまでは入れ替わりがあるが、以後は世代交代に伴う入れ替わりが見られない。世襲的傾向が強くなっている。

2回目の画期は、天明5年（1785）の伏見騒動である。伏見奉行小堀政明の不正に由来する騒動だが、その不正に関与した与力も処分され、その申し渡しは天明8年に決定・実施された。その結果、三輪は中追放、岡田・小野が押込処分を受けている。これにより三輪家は与力から離れる。しかし押込処分を受けた岡田・小野では、後継者が与力の地位を保持しており、存続している。そして寛政年間に長瀬家も姿を消した。

空席となった2枠は、棚橋・岡田が埋めている。前者は京都町奉行与力の縁者、後者は伏見奉行与力または所司代与力の縁者であろう。18世紀末以降に空いた与力席は、多くの場合、同じ与力の分家によって埋められている。

#### むすびにかえて

本稿では、伏見奉行与力の構成を示し、その変遷をたどった。また初期の編成において、奉行の縁者が与力にならないという特徴があり、奉行の身分が高いこと（石高



が多いこと)が、その与力編成にも影響を及ぼしていることを指摘した。

京都に関する研究は、史料も多く残されており、研究者をはじめ関心も高い。だがその京都とは、近世都市・京都のことであることが多く、現京都市域においても、都市を取り巻く農村部や伏見・淀については、十分に研究が及んでいるとはいえないのが実態ではないだろうか。本稿は、伏見奉行与力10騎の人名について、二百年程にわたって明らかにしえる分だけを提示したにすぎないものであるが、そのような欠を少しでも補うとともに、伏見研究等において活用しうる基礎情報として、公に資するところがあれば幸いである。

## 註

- 1) 京都市編『京都の歴史 第6巻 伝統の定着』(京都市史編さん所, 1973年)・『京都の歴史 第10巻 年表・事典』(京都市史編さん所, 1976年)
- 2) 藤井讓治「京都町奉行の成立過程」(京都町触研究会『京都町触の研究』岩波書店, 1996年), 村田路人「元禄期における伏見・堺両奉行の一時廃止と幕府の遠国奉行政策」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』43, 2003年), 小倉宗「近世中後期上方の幕府機構と京都・大坂町奉行」(『史林』92巻4号, 2009年), 伊藤誠之「近世伏見の土地・人の構造とその支配—伏見廻り村の視点を中心に—」(京都府立総合資料館『資料館紀要』38, 2010年)など
- 3) 京都市歴史資料館編『叢書京都の史料 京都武鑑』上・下(京都市歴史資料館, 2003年・2004年)
- 4) 拙稿「寛文～元禄期における京都町奉行与力の編成」(『京都市歴史資料館紀要』26号, 2016年)。以下「先稿」。
- 5) 『寛政重修諸家譜』巻第340(水野忠貞)
- 6) 水野が代官奉行とされた際、前任者である小堀政一(遠江守)の伏見邸を受けついだ。小堀邸の様子は、「伏見奉行所指図(城州伏見御旧宅之図)」(佐治家資料)にうかがえる(図版は、長浜城歴史博物館図録『特別展 小堀遠州とその周辺—寛永文化を演出したテクノクラート—』1997年)。
- 7) 唯一下回るのは戸田忠利であるが、後に万石以上(大名)にまで加増されている。
- 8) 岩生成一監修『清文堂史料叢書5・6 京都御役所向大概覚書』上・下(清文堂, 1973年)
- 9) 各村の石高は、木村礎編『旧高旧領取調帳近畿編』(東京堂出版, 1995年)によった。
- 10) 『伏見鑑』上(横山重監修『近世文学資料類従 古板地誌編5 山城四季物語 嵯峨名所盡 伏見鑑』勉誠社, 1981年)
- 11) 『京羽二重』(宝永板), 伏見町役場編『京都府伏見町誌』(伏見町役場, 1929年, 再刊は臨川書店, 1972年)による。
- 12) 『徳川実紀』元禄9年2月2日条には、「二日伏見堺両奉行を停廢あり。京町奉行に伏見の地を支配すべき旨命ぜらる。よて令せらるゝは、京町奉行三員のうち、今より後二員は在任し、伏見の与力同心其所属たるべし。是まで京与力給米少なければ、大坂与力と同じくし、与力廿五騎、同心七十人づゝ二隊、在京の奉行所属とし、伏見の与力四騎、同心十人はその地にのこしをくべし」とある。また『徳川実紀』元禄11年11月15日条に「再び伏見奉行を置れ、建部内匠頭政字これを仰付らる」、『同』同月18日条に「伏見の与力同心、さきに京町奉行につけられしかど、此後ふたゝび伏見奉行の所属たるべしと令せらる」とある。
- 13) 『伏見鑑』上(前掲)
- 14) 伏見町役場編『京都府伏見町誌』(前掲)
- 15) 「伏見同心田村家文書の概要」(母利美和・有働春香・三村明依子「<史料紹介> 山城国伏原家文書・伏見同心田村家文書・草津宿助郷大路井村文書・田丸城古記・丹波国船井郡西田村小早川家文書」『史窓』67号, 2010年)

- 16) 天和元年(1681)11月「酉年堀内段割帳」(館蔵「吉村(勘)家文書」受入3850)等
- 17) 貞享5年(1688)5月「年貢皆済目録」(館蔵「吉村(勘)家文書」受入3076)等
- 18) 「御香宮神社文書」(京都市歴史資料館架蔵写真帳)の公用日記(分類はD1,表題は「表向諸用留」「公儀向諸用留」など)
- 19) 屋敷配置のわかるものとして、元禄12年「伏見与力同心屋敷絵図Ⅰ」・享保4年「伏見与力同心屋敷絵図Ⅱ」(谷直樹編『大工頭中井家建築指図集』思文閣出版,2003年),『伏見鑑』(安永9年,前掲)がある。
- 20) 註4先稿
- 21) 『士林沂洄続編』191(『名古屋叢書』3編第4巻,蓬左文庫,1984年)。名前だけを記すと次のようになる。
- 大嶋助太夫—勘右衛門(永直)—勘右衛門(誰永)—  
├ 勘左衛門(近長)—小右衛門(長常)  
└ 勘左衛門—仙蔵  
└ 藤右衛門(範重)—幸八(広澄)
- 22) 川合(河合)半左衛門,清水又右衛門,水野源太夫の3名。
- 23) 五味家臣は,上野・白井・川辺・木戸・小畑・島・伯耆・前羽・山口・山村・山本・吉田。鈴木家臣は,坪井・山路。板倉家臣は石原・鶴殿・遠藤・大須賀・尾崎・片岡・金子・北窪・窪田・小林・設楽・篠原・清水・関屋・高橋・田上・丹宮・都筑・新美・長谷川・福住・本多・本間・牧野・三矢・横田・吉田。牧野家臣は青木・浅野・天野・荒川・井上・上原・大岩・影山・梶田・日下・小寺・高田・田中・谷口・土岐・富田・西尾・原・古川・堀・本多・松野・宮本・渡辺。
- 24) 先稿参照
- 25) 翻刻史料によっては,「旧井」(舊井)として  
いるものもあるが,署判には「白井」とあり,  
誤りである。

## 参考文献

- 伏見町役場編『伏見町誌』伏見町役場,1929年  
新修京都叢書刊行会編『新修京都叢書 第2巻』  
臨川書店,1969年
- 岩生成一監修『京都御役所向大概覚書』(上・下)  
清文堂,1973年
- 原田伴彦他編『日本都市生活史料集成 第十巻  
在郷町篇』学習研究社,1976年
- 京都府医師会医学史編纂室編『京都の医学史 資  
料編』思文閣出版,1980年
- 横山重監修『近世文学資料類従 古板地誌編5  
山城四季物語 嵯峨名所盡 伏見鑑』勉誠社,  
1981年
- 新撰京都叢書刊行会編『新撰京都叢書 第5巻』  
臨川書店,1986年
- 京都市編『史料京都の歴史 第16巻 伏見区』平  
凡社,1991年
- 谷直樹編『大工頭中井家建築指図集』思文閣出版,  
2003年

表2・3伏見奉行与力一覧典拠

「伏見奉行与力一覧」典拠

[凡例]

- ・伏見奉行与力の典拠史料を家ごとにあげているが、1人につき、年一つに限定した。
- ・月日の丸付数字は、閏月を示す。
- ・典拠史料名は、次のように略記している。例示の他、類推されたい。なお史料名の前に付された「F36」などの番号は、京都市歴史資料館における紙焼史料の架蔵番号である。

(例)

館蔵「吉村家文書」受入3844号

→ 館「吉村」3844

F36「御香宮神社文書」D1-1号

→ F36「御香」D1-1

『京都御役所大概覚書』

→ 「大概覚書」

『伏見町誌』

→ 「伏見町誌」頁数

- ・「助」と「介」, 「次郎」と「二郎」「治郎」など、表記にばらつきのある人物もいるが、適当と思われる事例に統一した。
- ・末尾に参考文献を付した。

あしのや【芦谷】

芦谷小右衛門

宝永3.1.7 (F36「御香」D1-1)

宝永7.11 (館「吉村」3844)

宝永8.2.4 (F36「御香」D1-1)

芦谷重規

正徳1.12(「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)

芦谷小右衛門

正徳1.10 (館「吉村」675)

正徳2.11 (館「吉村」3859)

正徳3.11 (館「吉村」2229)

正徳4.6.4 (F36「御香」D1-1)

正徳5.7.27 (F36「御香」D1-20:文  
化4.3.16)

享保4 (『大工頭中井家建築指図集』  
115)

いしぐる【石黒】

石黒小藤太

元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)

元禄6 (「大概覚書」5-1)

→ 後に京都町奉行与力となる。

いたみ【伊丹】

伊丹太兵衛

天和1.11 (館「吉村」3850)

天和2.6 (館「吉村」3082)

天和3.6 (館「吉村」3081)

伊丹弥平治

元禄2 (「伏見町誌」136)

元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)

元禄7.9.14 (F36「御香」D3-13)

いで【伊出】

伊出忠左衛門

元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』  
114)

元禄13.11 (館「吉村」2246)

元禄14.11 (館「吉村」2249)

元禄15.10 (館「吉村」2244)

元禄16.10 (館「吉村」2245)

宝永1.10 (館「吉村」2241)

宝永2.10 (館「吉村」2260)

宝永3.10 (館「吉村」3831)

宝永4.11 (館「吉村」2290)

- 宝永5.11 (館「吉村」3831)  
宝永6.11 (館「吉村」3841)  
宝永7.11 (館「吉村」3844)
- 伊出宗恒  
正徳1.12(「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)
- 伊出忠左衛門  
正徳1.10 (館「吉村」675)  
正徳2.10 (館「吉村」2302)  
正徳3.11 (館「吉村」2229)  
享保4 (『大工頭中井家建築指図集』  
115)
- うすい【白井】**
- 白井八郎左衛門  
延宝3 (K6「岩佐」D1-16)
- 白井五左衛門  
貞享3.7 (館「吉村」3079)  
貞享4.5 (「吉村」3077)  
貞享5.5 (館「吉村」3076)  
元禄1.11 (館「吉村」2248)  
元禄2.5 (館「吉村」3075)  
元禄3.5 (館「吉村」3074)  
元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)  
元禄6 (「大概覚書」5-1)
- おおしお【大塩】**
- 大塩勘左衛門  
延宝1.11 (館「吉村」3827)  
延宝3.11 (館「吉村」2228)  
延宝4.11 (館「吉村」3829)  
延宝5.11 (館「吉村」3837)
- 大塩弥右衛門  
貞享2.6 (館「吉村」3078)  
貞享3.7 (館「吉村」3079)  
貞享4.10 (「吉村」堀内村開帳廿一冊  
分寄帳)
- 貞享5.5 (館「吉村」3076)  
元禄2 (「伏見町誌」136)  
元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)  
元禄7.10.8 (F36「御香」D3-13)  
元禄8.9.8 (F36「御香」D1-1)
- 大塩藤八  
元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』  
114)
- おおしま【大島】**
- 大嶋勘右衛門  
延宝3.1 歿 (『士林沂沕続編』191)
- 大嶋助太夫  
延宝6.11 (館「吉村」3834)  
延宝7.5.29 (館「吉村」3087)
- 大嶋勘右衛門  
元禄8.7.13 (F36「御香」D1-1)  
元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』  
114)  
元禄13.6.19 (F36「御香」D1-1)  
元禄15.5 (館「吉村」2917)  
元禄16.5.16 (館「吉村」3071)  
正徳1.2 歿 (『士林沂沕続編』191)
- 大嶋参忠  
正徳1.12(「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)
- 大嶋七郎左衛門  
享保3.1.10 (F36「御香」D1-1)  
享保4 (『大工頭中井家建築指図集』  
115)  
享保5.3.17 (F36「御香」D1-2)  
享保6.3.23 (F36「御香」D1-2)  
享保13.2.2 (F36「御香」D1-2)  
享保15.5.12 (F36「御香」D1-2)
- 大嶋千蔵  
宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)

- 宝暦8.5.9 (F36「御香」D1-5)  
宝暦9.2.23 (F36「御香」D1-5)  
宝暦11.2.2 (F36「御香」D1-5)  
宝暦12.12.13 (F36「御香」D1-5)  
宝暦14.4.7寺社方 (F36「御香」D1-5)  
明和2.11.20 (F36「御香」D1-5)  
明和3.2.4 (F36「御香」D1-5)  
明和4.5.9 (F36「御香」D1-5)
- 大嶋千蔵  
安永8.12.5 (F36「御香」D1-6)  
安永9 (「新彫伏見鑑」)
- 大嶋学次郎  
安永9見習 (「新彫伏見鑑」)  
天明1.8.28 (F36「御香」D1-7)  
\*角次郎  
天明2.5.18 (F36「御香」D1-1)  
天明3.10.23 (F36「御香」D1-7)  
天明8 (N7「占出山」D1-24)  
寛政1.9.1 (F36「御香」D1-10)  
寛政2.1.4 (F36「御香」D1-10)  
寛政3.1.1 (F36「御香」D1-10)  
寛政4.1.18 (F36「御香」D1-10)  
寛政5.2.7寺社方 (「仏光寺御日記」)  
寛政7.4.20 (F36「御香」D1-14)  
寛政8.1.28 (F36「御香」D1-15)
- 大嶋勘右衛門  
文化7.8.13 (館「吉村」832)  
文化9.4.24 (F36「御香」D1-25)
- 大嶋栄治郎  
文政11 (「伏見町誌」312)
- 大嶋学次郎  
天保3.9.12寺社方 (F36「御香」D1-30)  
天保5.9.12寺社方 (F36「御香」D1-32)
- 大嶋勘助  
天保12 (「伏見町誌」310)
- 天保15.9 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)  
弘化2.1.6 (F36「御香」D1-43)  
嘉永4.4.21地方 (F36「御香」D1-48)  
嘉永5.1.27地方 (館「吉村」481)
- 大嶋邦次郎  
天保12見習 (「伏見町誌」310)  
嘉永3.1.10寺社方 (F36「御香」D1-47)  
嘉永4.4.21寺社方 (F36「御香」D1-48)  
嘉永6.8.16寺社方 (F36「御香」D1-50)  
安政2.1.13寺社方 (F36「御香」D1-52)  
安政3.11.9寺社方 (F36「御香」D1-53)  
元治1.1.6 (F36「御香」D2-36)  
慶応2.3.23山林方 (F36「御香」D2-38)  
慶応3.9 (F36「御香」D3-22)
- おかだ【岡田】**
- 岡田八左衛門  
延宝3 (K6「岩佐」D1-16)
- 岡田儀左衛門  
延宝8.11 (館「吉村」3849)  
延宝9.6 (館「吉村」3083・3168)  
天和1.11 (館「吉村」3850)  
天和2.6 (館「吉村」3082)
- 岡田助之進  
元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』  
114)  
宝永3.10 (館「吉村」3833)  
宝永4.11 (館「吉村」2290)  
宝永5.11 (館「吉村」3831)  
宝永6.11 (館「吉村」3841)  
正徳4.6.4 (F36「御香」D1-1)
- 岡田正房  
正徳1.12 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)



- 岡田助之進  
 享保4.8.26 (F36「御香」D1-2)  
 享保5.8.20, 9.2, 11.4, 6, 21, 12.13  
 (F36「御香」D1-2)
- 岡田助之進  
 享保20.6.27 (F36「御香」D1-3)
- 岡田儀左衛門  
 元文1.11.16 (F36「御香」D1-3)
- 岡田長次郎  
 延享4.11.12 (F36「御香」D1-4)  
 宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)
- 岡田文左衛門  
 宝暦11.5.15 (F36「御香」D1-5)  
 安永8.2.13 棚橋鈍翁弔世話人 (Km32  
 「光清寺」新262)  
 安永9 (「新彫伏見鑑」)  
 天明1.5.27 寺社方 (F36「御香」D1-7)  
 天明2.1.9 (F36「御香」D1-1)  
 天明3.1.3 (F36「御香」D1-7)  
 天明4.10.21 (F36「御香」D1-7)  
 天明5.1.3 (F36「御香」D1-7)  
 天明8押込 (N7「占出山」D1-24)
- 岡田恒次郎  
 安永9見習 (「新彫伏見鑑」)  
 \* 桓次郎か
- 岡田官次郎  
 天明2.8.晦 (F36「御香」D1-1)
- 岡田健次郎  
 天明3.5.16 (F36「御香」D1-7)
- 岡田官次郎  
 天明5.4.21 (F36「御香」D1-7)
- 岡田恒次郎  
 天明8 (N7「占出山」D1-24)  
 \* 桓次郎か
- 岡田良左衛門  
 寛政3地方 (館「吉村」3209)  
 文化7.6.8 (F36「御香」D1-23)
- 岡田健次郎  
 寛政1.10.26 (F36「御香」D1-10)  
 寛政3.12.4 (F36「御香」D1-10)  
 寛政4.5.7 (F36「御香」D1-10)  
 寛政5.2.7 寺社方 (「仏光寺御日記」)  
 寛政7.1.5 (F36「御香」D1-14)  
 寛政8.1.28 (F36「御香」D1-15)  
 寛政10.9.11 (F36「御香」D1-16)  
 寛政12.3.18 寺社方 (F36「御香」D1-17)  
 享和1.1.6 (F36「御香」D1-18)  
 文化3.1.16 寺社方 (F36「御香」D1-19)  
 文化4.1.10 (F36「御香」D1-20)  
 文化5.3.5 寺社方 (F36「御香」D1-21)  
 文化6.2.10 寺社方 (F36「御香」D1-22)
- 岡田恒治郎  
 享和3.12 (館「吉村」1011)
- 岡田文左衛門  
 文化13.1 盗賊改仮役・公事調掛 (F10  
 「今邑」114)  
 文政1.9.12 寺社方 (F36「御香」D1-29)  
 天保5.9.12 寺社方 (F36「御香」D1-32)
- 岡田運平  
 文化13.1 目安方・山林方 (F10「今邑」  
 114)
- 岡田祐之進  
 文政11 (「伏見町誌」312)  
 天保9.7 (館「吉村」1012)  
 天保12 (「伏見町誌」310)  
 天保15.9 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
 5巻284頁)  
 弘化2.3 (館「吉村」3894)
- 岡田耕之丞  
 文政11 (「伏見町誌」312)

- 天保3.9.12 寺社方 (F36「御香」D1-30)  
天保5.9.12 寺社方 (F36「御香」D1-32)  
天保12 (「伏見町誌」310)  
天保15.9 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)  
弘化2.8.29 (F36「御香」D1-43)
- 岡田健三郎  
文政11 見習 (「伏見町誌」312)  
\* 祐之進弟
- 岡田祐一  
天保12 見習 (「伏見町誌」310)  
\* 神沢虎之助 (町奉行与力) 従弟 (K6  
「岩佐」K32)  
嘉永3.1.10 寺社方 (F36「御香」D1-47)
- 岡田芳太郎  
安政6.1.24 (F36「御香」D1-54)  
文久3.12.16 (F36「御香」D2-35)  
慶応1.5.20 (F36「御香」D2-37)
- 岡田菅之助  
文久3.3.28 寺社方 (F36「御香」D2-35)
- 岡田勝馬  
慶応3.9 (F36「御香」D3-22)
- 岡田又一  
慶応3.9 (F36「御香」D3-22)
- おの【小野】**
- 小野三郎左衛門  
延享2.2.3 (F36「御香」D1-3)  
延享3.2.9 (F36「御香」D1-4)  
延享4.8.27 (F36「御香」D1-4)  
寛延1.8.28 (F36「御香」D1-4)  
寛延3.4.28 (F36「御香」D1-4)
- 小野三郎右衛門  
宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)  
宝暦7 (「上林家前代記録」『都市生活  
史料集成』10)
- 宝暦8.4.23 (「妙法院日次記」)  
宝暦9.11.27 (館「吉村」104)
- 小野三郎左衛門  
宝暦9.12.4 (F36「御香」D1-5)  
宝暦10.10.14 (F36「御香」D1-5)  
宝暦12.11.22 (F36「御香」D1-5)  
宝暦13.9.22 (F36「御香」D1-5)  
宝暦14.4.7 寺社方 (F36「御香」D1-5)  
明和2.8.27 (F36「御香」D1-5)  
明和3.2.4 (F36「御香」D1-5)  
明和4.3.21 (F36「御香」D1-5)
- 小野三十郎  
安永9 (「新彫伏見鑑」)  
天明1.9.2 (F36「御香」D1-7)  
天明2.5.8 (F36「御香」D1-7)  
天明3.12.13 (F36「御香」D1-7)  
天明4.10.21 (F36「御香」D1-7)  
天明5.3.14 (F36「御香」D1-7)  
天明6.1.2 (F36「御香」D1-7)  
天明8.5.6 (館「吉村」2299, 丹十郎)  
天明8 押込 (N7「占出山」D1-24)
- 小野三十郎  
寛政2.12.7 (F36「御香」D1-10)  
寛政4.2.12 (F36「御香」D1-10)  
寛政12.11.26 寺社方 (F36「御香」  
D1-17)  
享和1.1.6 (F36「御香」D1-18)  
文化3.1.16 寺社方 (F36「御香」D1-19)  
文化4.12.1 盜賊方 (F36「御香」D1-20)  
文化7.8.13 (館「吉村」832)  
文化8.7 (F8「奥田(芳)」4)  
文政11 (「伏見町誌」312)  
天保3.9.12 盜賊方 (F36「御香」D1-30)  
天保5.9.12 寺社方 (F36「御香」D1-32)  
天保12 (「伏見町誌」310)

- 天保15.9(「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁) 115)
- 小野弥一郎 小泉貞右衛門  
天保12見習(「伏見町誌」310) 享保8.3地方(館「吉村」3150)  
小野三十郎 享保9.④.2(館「吉村」2983)  
弘化2.3(館「吉村」3894) 享保10.12.25(館「吉村」218)  
嘉永4.4.21地方(F36「御香」D1-48) 享保11.2.16(館「吉村」217)  
嘉永5.1.27地方(館「吉村」481) 享保12.1(館「吉村」27)  
小野弥一郎 享保13.12.25(館「吉村」50)  
嘉永3.11.18寺社方(F36「御香」D1-47) 享保14.12.25(館「吉村」29)  
嘉永4.4.21寺社方(F36「御香」D1-48) 享保15.3(館「吉村」28)  
嘉永5.1.26寺社方(F36「御香」D1-49) 享保16.2.25(館「吉村」219)  
嘉永6.8.16寺社方(F36「御香」D1-50) 小泉伊蔵  
安政2.1.13寺社方(F36「御香」D1-52) 寛延3.4.27(F36「御香」D1-4)  
文久3.12.19(F36「御香」D2-35) 小泉伊織  
慶応2.3.22山林方(F36「御香」D2-38) 宝暦4(「京羽二重織留大全」巻6)  
慶応3.9(F36「御香」D3-22) 小泉伊蔵  
小野永則 宝暦6.⑩.5(F36「御香」D1-5)  
1872.5堀内村住居(館「吉村」538) 小泉貞右衛門  
小野永豊 宝暦9.11.27(館「吉村」104)  
1872.5堀内村住居, 永則倅(館「吉村」538) 小泉関七郎  
安永7.8.11(『史料京都の歴史 伏見区』520頁)  
きど【木戸】 小泉恵三郎  
安永9(「新彫伏見鑑」)  
木戸郷左衛門 小泉恵七郎  
延宝1.11(館「吉村」3827) 天明2.5.9(F36「御香」D1-7)  
延宝2.10(館「吉村」3848) 小泉勘八郎  
延宝3.11(館「吉村」2228) 天明3.8.27(F36「御香」D1-7)  
延宝4.6.晦(館「吉村」3089) 天明4.11.26(F36「御香」D1-7)  
延宝5.6.16(館「吉村」3088) 天明6.1.21(F36「御香」D1-7)  
こいずみ【小泉】 天明8(N7「占出山」D1-24)  
小泉明貞 小泉恵七郎  
正徳1.12(「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁) 寛政3地方(館「吉村」3209)  
小泉伊太夫 寛政10.9.11(F36「御香」D1-16)  
享保4(『大工頭中井家建築指図集』

小泉伊蔵

享和1.4.22 (F36「御香」D1-18)

文化4.6.2 (F36「御香」D1-20)

小泉喜三郎

文化7.9.12盗賊方 (F36「御香」D1-23)

文化9.6.18 (F36「御香」D1-25)

小泉伊兵衛

文化12.6.16 (F36「御香」D1-26)

文化13.1山林方・同心支配 (F10「今邑」114)

文化15.4.7山林方 (F10「今邑」113)

文政1.9.12寺社方 (F36「御香」D1-29)

小泉祐太夫

文政11与力 (「伏見町誌」312)

天保3.9.12盗賊方 (F36「御香」D1-30)

小泉伊太夫

天保5.9.12寺社方 (F36「御香」D1-32)

小泉伊織

天保12 (「伏見町誌」310)

天保15.9 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』5巻284頁)

小泉泰吉郎

安政2.1.13寺社方 (F36「御香」D1-52)

安政3.11.9寺社方 (F36「御香」D1-53)

安政6.4.15寺社方 (F36「御香」D1-54)

小泉篤太郎

慶応3.9 (F36「御香」D3-22)

すぎやま【杉山】

杉山平太左衛門

元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』114)

元禄15 (「大概覚書」5-1)

杉山好広

正徳1.12 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』5巻284頁)

杉山六郎兵衛

享保4 (『大工頭中井家建築指図集』115)

享保8.3地方 (館「吉村」3150)

享保9.5.28 (館「吉村」215)

享保15.1.7 (F36「御香」D1-2)

杉山藤右衛門

寛延3.4.11 (F36「御香」D1-4)

杉山瀬兵衛

宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)

杉山郷右衛門

安永8.10.6 (F36「御香」D1-6)

安永9 (「新彫伏見鑑」)

天明2.6.3 (館「吉村」812)

天明5.12 (「伏見町誌」190)

天明8既に病死 (N7「占出山」D1-24)

杉山覚兵衛

文化3.4.28寺社方 (F36「御香」D1-19)

文化4.1.10 (F36「御香」D1-20)

文化5.3.5寺社方 (F36「御香」D1-21)

文化6.2.10寺社方 (F36「御香」D1-22)

文化7.9.12盗賊方 (F36「御香」D1-23)

文化9.9.3山林方 (F36「御香」D1-25)

文化12.8.10 (F36「御香」D1-26)

文化15.4.7山林方 (F10「今邑」113)

文政1.9.12盗賊方 (F36「御香」D1-29)

杉山廉三郎

天保12.9 (F36「御香」D3-20)

杉山左右介

天保12与力 (「伏見町誌」310)

天保15.9 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』5巻284頁)

弘化2.8.29山林 (F36「御香」D1-43)

杉山繁太郎

嘉永5.2.5見習 (F10「今邑」127)

- 杉山弥吉  
慶応3.9 (F36「御香」D3-22)  
元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)  
元禄7.10.29 (F36「御香」D3-13)
- たなはし【棚橋】**
- 棚橋熊之助  
享和1.4.22 (F36「御香」D1-18)  
文化4.12.17 (F36「御香」D1-20)  
文化6.8.5 (F36「御香」D1-22)  
文化7.1.2 (F36「御香」D1-23)  
文化13.1川方・極印方 (F10「今邑」114)  
津田順右衛門  
元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』114)  
津田豊封  
正徳1.12(「伏見叢書」『新撰京都叢書』5巻284頁)  
津田順右衛門  
正徳2.10 (館「吉村」636・2274・2302)  
正徳3.11 (館「吉村」2229)
- 棚橋兵左衛門  
天保3.9.12寺社方 (F36「御香」D1-30)  
天保5.9.12寺社方 (F36「御香」D1-32)  
天保12 (「伏見町誌」310)  
津田唯右衛門  
正徳4.2.4 (F36「御香」D1-1)  
享保1.12.12 (F36「御香」D1-1)  
享保2.8.18 (F36「御香」D1-1)  
享保5.2.11 (F36「御香」D1-2)
- 棚橋慎平  
天保15.9(「伏見叢書」『新撰京都叢書』5巻284頁)  
弘化2.5.19 (F36「御香」D1-43)  
津田順右衛門  
享保5.11 (館「吉村」3196)  
享保15.6.22 (F36「御香」D1-2)  
享保20.4.21 (F36「御香」D1-3)  
享保21.2.12 (F36「御香」D1-3)  
元文2.8.27 (F36「御香」D1-3)  
元文3.7.22 (F36「御香」D1-3)  
元文4.4.4 (F36「御香」D1-3)
- 棚橋金四郎  
安政3.11.9寺社方 (F36「御香」D1-53)  
安政6.6.13寺社方 (F36「御香」D1-54)  
文久3.3.28寺社方 (F36「御香」D2-35)  
元治1.12.10 (F36「御香」D2-36)  
慶応1.⑤.15寺社方 (F36「御香」D2-37)  
慶応2.3.23寺社方 (F36「御香」D2-38)  
津田為右衛門  
元文5.5.19 (F36「御香」D1-3)  
宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)
- 棚橋源平太  
安政6.6.14 (F36「御香」D1-54)  
文久3.1.8 (F36「御香」D2-35)  
元治1.1.6 (F36「御香」D2-36)  
慶応1.5.22 (F36「御香」D2-37)  
慶応2.3.23山林方 (F36「御香」D2-38)  
津田順右衛門  
安永9 (「新彫伏見鑑」)  
津田順右衛門  
天明5 (「伏見町誌」184)  
天明8既に病死 (N7「占出山」D1-24)  
津田為右衛門  
享和1.8.23 (F36「御香」D1-18)
- つだ【津田】
- 津田五太夫  
元禄2 (「伏見町誌」136)



- 文化4 (F36「御香」D1-20)  
文化7.9.4 (F36「御香」D1-23)  
津田永助  
文化12.4.12 (F36「御香」D1-26)  
津田五太夫  
文政11 (「伏見町誌」312)  
津田貞三郎  
天保12 (「伏見町誌」310)  
天保15.9 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)  
嘉永4.4.21 寺社方 (F36「御香」D1-48)  
津田為助  
嘉永3.1.10 寺社方 (F36「御香」D1-47)  
嘉永4.2.20 (F36「御香」D1-48)  
嘉永6.8.16 寺社方 (F36「御香」D1-50)  
文久3.1.8 (F36「御香」D2-35)  
元治1.4.12 (F36「御香」D2-36)  
慶応1.⑤.7 (F36「御香」D2-37)  
津田佐太郎  
嘉永5.2.5 見習 (F10「今邑」127)  
津田養蔵  
文久3.3.28 寺社方 (F36「御香」D2-35)  
元治1.4.12 (F36「御香」D2-36)  
慶応1.⑤.15 寺社方 (F36「御香」D2-37)  
慶応2.3.22 寺社方 (F36「御香」D2-38)  
津田為助  
慶応3.9 (F36「御香」D3-22)  
**ながせ【長瀬】**  
長瀬小兵衛  
延宝1.霜 (館「吉村」2289)  
延宝2.10 (館「吉村」3848)  
延宝3.5.晦 (館「吉村」3090)  
長瀬久右衛門  
天和3.11 (館「吉村」3839)  
貞享1.6 (館「吉村」3080)  
貞享2.6 (館「吉村」3078)  
貞享3.7 (館「吉村」3079)  
貞享4.11 (館「吉村」2240・2250)  
貞享5.5 (館「吉村」3076)  
元禄2 (「伏見町誌」136)  
元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)  
元禄7.10.7 (F36「御香」D3-13)  
長瀬喜八郎  
元禄11 (「大概覚書」5-1)  
元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』  
114)  
長瀬正上  
正徳1.12 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
5巻284頁)  
長瀬久右衛門  
延享1.11.27 (F36「御香」D1-3)  
宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)  
長瀬九郎右衛門  
宝暦13.12.3 (F36「御香」D1-5)  
明和3.5.8 (F36「御香」D1-5)  
明和4.9.16 (諱紀甫) (「伊良子家門人  
帳」『京都の医学史』)  
長瀬六左衛門  
安永7.8.11 (『史料京都の歴史 伏見  
区』520頁)  
長瀬五郎左衛門  
安永8.10.7 (F36「御香」D1-6)  
安永9 (「新彫伏見鑑」)  
天明1.5.27 寺社方 (F36「御香」D1-7)  
天明2.6.3 (館「吉村」812)  
天明3.5.10 (F36「御香」D1-7)  
天明4.10.21 (F36「御香」D1-7)  
天明5.5.10 (F36「御香」D1-7)  
天明6.1.4 (F36「御香」D1-7)  
天明8 (N7「占出山」D1-24)

長瀬孫八郎

天明5.4.17 (F36「御香」D1-7)

天明6.1.21 (F36「御香」D1-7)

天明8 (N7「占出山」D1-24)

長瀬作十郎

寛政1.12.18 寺社方 (F36「御香」D1-10)

寛政2.3.22 (F36「御香」D1-10)

寛政3.1.1 (F36「御香」D1-10)

長瀬五郎左衛門

寛政4.1.18 (F36「御香」D1-10)

長瀬鉄九郎

寛政4.8.11 (F36「御香」D1-10)

**はやし【林】**

林 権太夫

元禄2 (「伏見町誌」136)

元禄3.11 (館「吉村」2243)

元禄4.5 (館「吉村」3073)

元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)

元禄7.10.13 (F「御香宮」D3-13)

元禄8.1.8 (F「御香宮」D3-13)

**ひろかわ【広川】**

広川儀左衛門

元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)

元禄7.10.19 (F36「御香」D3-13)

**ひろさわ【広沢】**

広沢茂左衛門

元禄2 (「伏見町誌」136)

**ふじばやし【藤林】**

藤林三右衛門

元禄1.11 (館「吉村」2248)

元禄2.5 (館「吉村」3075)

元禄3.5 (館「吉村」3074)

元禄4.5 (館「吉村」3073)

元禄5.7.18 (F36「御香」D1-1)

元禄7.10.8 (F36「御香」D3-13)

**ふるい【旧井】 → うすい【白井】**

**ほしの【星野】**

星野伝右衛門

延宝1.11 (館「吉村」3827)

延宝3.11 (「吉村」2228)

延宝4.11 (館「吉村」3829)

延宝5.6.16 (館「吉村」3088)

延宝6.11 (館「吉村」3834)

延宝7.5.29 (館「吉村」3087)

星野五郎右衛門

天和2.11 (館「吉村」3847)

天和3.6 (館「吉村」3081)

貞享1.6 (館「吉村」3080)

貞享2.6 (館「吉村」3078)

元禄2 (「伏見町誌」136)

**みわ【三輪】**

三輪源太兵衛

元禄12 (『大工頭中井家建築指図集』114)

三輪則茂

正徳1.12 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』5巻284頁)

三輪源五右衛門

享保4 (『大工頭中井家建築指図集』115)

享保6.3.21 (F36「御香」D1-2)

三輪源五右衛門

元文4.11.21 (F36「御香」D1-3)

元文5.9.19 (F36「御香」D1-3)

元文6.3.26 (F36「御香」D1-3)

寛保2.6.12 (F36「御香」D1-3)

寛保3.2.12 (F36「御香」D1-3)

寛保4.4.11 (F36「御香」D1-3)

延享1.12.17 (F36「御香」D1-3)

延享4.5.11 (F36「御香」D1-4)

- 寛延2.9.5 (F36「御香」D1-4)  
宝暦2.7 (M59「安楽寺文書」15)
- 三輪源五右衛門  
宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)  
宝暦6.10.23 (F36「御香」D1-5)  
宝暦7 (「上林家前代記録」『都市生活史料集成』10)
- 三輪源太右衛門  
安永9 (「新彫伏見鑑」)  
天明1.5.27 寺社方 (F36「御香」D1-7)  
\*左衛門  
天明5.12 (「伏見町誌」190)  
天明8.5.6 (館「吉村」2299)  
天明8中追放 (N7「占出山」D1-24)
- むらい【村井】**
- 村井伝之丞  
享保9.12.25 (館「吉村」43)  
享保10.12.25 (館「吉村」218)  
享保11.2.16 (館「吉村」217)  
享保12.1 (館「吉村」27)  
享保13.12.25 (館「吉村」50)  
享保14.12.25 (館「吉村」29)  
享保15.3 (館「吉村」28)  
享保16.2.25 (館「吉村」219)  
享保20.8.12 (F36「御香」D1-20:文化4.3.16)  
元文1.9.7 (『史料京都の歴史 伏見区』502頁)
- 村井伝之丞  
元文2.6.1 (F36「御香」D1-3)  
元文3.5.15 (F36「御香」D1-3)  
元文4.5.12 (F36「御香」D1-3)  
元文5.8.27 (F36「御香」D1-3)  
元文6.2.27 (F36「御香」D1-3)  
寛保2.5.17 (F36「御香」D1-3)
- 寛保3.2.12 (F36「御香」D1-3)  
延享1.7.27 (F36「御香」D1-3)  
延享2.10.19 (F36「御香」D1-3)  
延享3.2.14 (F36「御香」D1-4)  
延享4.5.18 (F36「御香」D1-4)  
延享5.5.11 (F36「御香」D1-4)  
寛延2.8.27 (F36「御香」D1-4)  
寛延3.1.10 (F36「御香」D1-4)  
宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)  
宝暦13.5.9 (F36「御香」D1-5)  
安永8.10.6 (F36「御香」D1-6)  
安永9 (「新彫伏見鑑」)  
天明1.10.12 (F36「御香」D1-7)  
天明2.8.25 (F36「御香」D1-7)  
天明3.12.5 (F36「御香」D1-7)  
天明5.11.27 (F36「御香」D1-7)  
天明7.12 (「伏見町誌」312)  
天明8 (N7「占出山」D1-24)  
寛政1.9.5 (F36「御香」D1-10)
- 村井千太郎  
寛政3.5.10 (F36「御香」D1-10)
- 村井伝之丞  
寛政10.9.6 (F36「御香」D1-16)  
寛政12.3.18 寺社方 (F36「御香」D1-17)  
享和1.9.2 山林方 (F36「御香」D1-18)
- 村井百助  
寛政10.9.11 盜賊方 (F36「御香」D1-16)  
寛政12.3.18 寺社方 (F36「御香」D1-17)
- 村井平三郎  
文化7.9.4 (F36「御香」D1-23)  
文化12.9.11 盜賊方 (F36「御香」D1-26)  
文化13.1 (寺社方・盜賊改本役) (F10「今邑」114)  
文政1.9.12 寺社方・盜賊方 (F36「御香」D1-29)

- 文政11（「伏見町誌」312）  
村井伝之丞  
    文政11（「伏見町誌」312）  
    天保3.9.12盗賊方（F36「御香」D1-30）  
    天保5.9.12寺社方（F36「御香」D1-32）  
    天保9.7（館「吉村」1012）  
    天保12（「伏見町誌」310）  
村井平三郎  
    天保12見習（「伏見町誌」310）  
    天保15.9（「伏見叢書」『新撰京都叢書』  
    5巻284頁）  
    弘化2.8.29（F36「御香」D1-43）  
村井栄治郎  
    嘉永5.2.5見習（F10「今邑」127）  
村井栄治郎  
    安政6.4.15寺社方（F36「御香」D1-54）  
村井栄五郎  
    文久3.3.28寺社方（F36「御香」D2-35）  
村井 要  
    文久3.2.2（F36「御香」D2-35）  
    元治1.8.20（F36「御香」D2-36）  
    慶応1.7.30（F36「御香」D2-37）  
村井要人  
    慶応2.8.9寺社方（F36「御香」D2-38）  
    ＊要から改名か  
    慶応3.9（F36「御香」D3-22）  
**むらかみ【村上】**  
村上権太夫  
    元禄12（『大工頭中井家建築指図集』  
    114）  
    元禄13.8.17寺社方（『史料京都の歴史  
    伏見区』502頁）  
    元禄15.5（館「吉村」2917）  
    元禄16.5.16（館「吉村」3071）  
**よこた【横田】**  
横田彦兵衛  
    延宝5.11（館「吉村」3837）  
    延宝6.11（館「吉村」3834）  
    延宝7.11（館「吉村」2242）  
    延宝8.6.30（館「吉村」3085）  
横田彦左衛門  
    元禄1.11（館「吉村」2248）  
    元禄2.5（館「吉村」3075）  
    元禄3.5（館「吉村」3074）  
    元禄4.5（館「吉村」3073）  
    元禄5.7.18（F36「御香」D1-1）  
    元禄7.11.1（F「御香宮」D3-13）  
    元禄11～15（「大概覚書」5-1）  
    元禄12（『大工頭中井家建築指図集』  
    114）  
    元禄13.11（館「吉村」2246）  
    元禄14.11（館「吉村」2249）  
    元禄15.10（館「吉村」2244）  
    元禄16.10（館「吉村」2245）  
    宝永1.10（館「吉村」2241）  
    宝永2.10（館「吉村」2260）  
    宝永3.10（館「吉村」3833）  
    宝永4.11（館「吉村」2290）  
    宝永5.11（館「吉村」3831）  
    宝永6.11（館「吉村」3841）  
    宝永7.11（館「吉村」3844）  
    正徳1.10（館「吉村」675）  
    正徳1.11（館「吉村」2235）  
横田彦兵衛  
    享保4（『大工頭中井家建築指図集』  
    115）  
    享保5.11（館「吉村」3196）  
横田丹治  
    享保20.10.26（F36「御香」D1-3）

- 享保21.1.17 (F36「御香」D1-3)  
元文2.4.14 (F36「御香」D1-3)  
元文3.3.12 (F36「御香」D1-3)  
元文4.6.4 (F36「御香」D1-3)  
元文5.10.23 (F36「御香」D1-3)  
横田三郎左衛門  
寛保1.1.27 (F36「御香」D1-3)  
寛保2.7.26 (F36「御香」D1-3)  
寛保3.2.12 (F36「御香」D1-3)  
寛保4.2.12 (F36「御香」D1-3)  
横田五市郎  
宝暦4 (「京羽二重織留大全」巻6)  
横田彦十郎  
安永9 (「新彫伏見鑑」)  
横田彦兵衛  
天明7.12 (「伏見町誌」312)  
天明8 (N7「占出山」D1-24)  
寛政4.6.2 (F36「御香」D1-10)  
寛政5.3.10 (F36「御香」D1-10)
- 横田彦五郎  
文化7.1.2 (F36「御香」D1-23)  
横田五一郎  
文化7.3.3 (F36「御香」D1-23)  
文化9.6.18 (F36「御香」D1-25)  
文化12.1.4 (F36「御香」D1-26)  
文化13.1地方・勘定方・寺社方 (F10「今邑」114)  
横田彦十郎  
文政11 (「伏見町誌」312)  
天保3.1.19寺社方 (F36「御香」D1-30)  
横田孫太郎  
天保12 (「伏見町誌」310)  
天保15.9 (「伏見叢書」『新撰京都叢書』5巻284頁)  
横田蔵之助  
文久3.12.19 (F36「御香」D2-35)  
横田蔵之助  
慶応3.9 (F36「御香」D3-22)  
\* 11.19暗殺 (「伏見町誌」223)

いのうえ こうじ  
井上 幸治 (歴史資料館 館員)